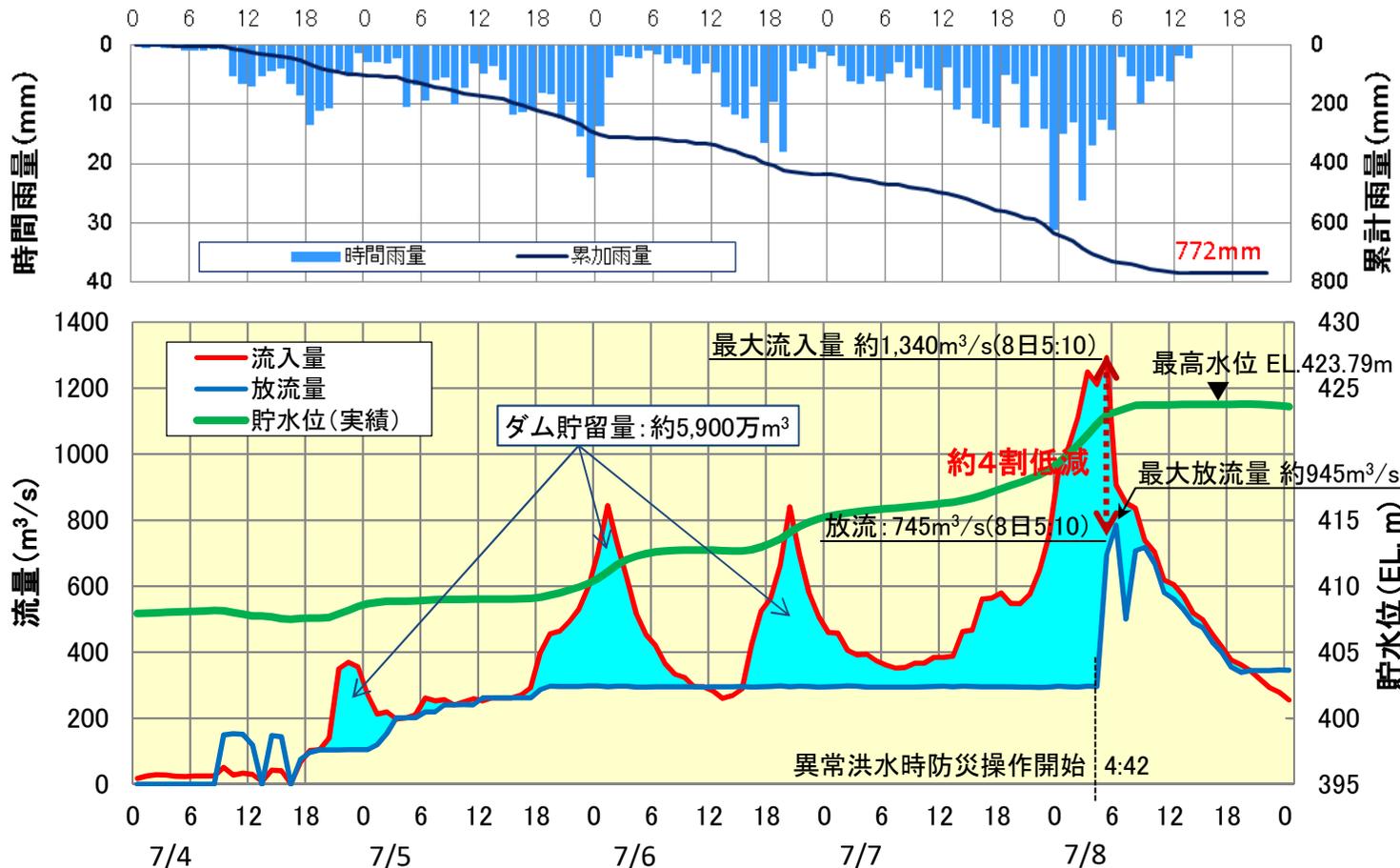


# 平成30年7月4日～8日の洪水調節

- 平成30年7月4日0時～8日13時において岩屋ダム流域での累加雨量は過去最大の772ミリを記録。（管理開始以降2番目の記録は532mm）
- 岩屋ダムへの流入量は、管理開始以降2番目となる最大で毎秒約1,340立方メートル（過去最大は平成16年10月の1,449立方メートル）
- 岩屋ダムでは洪水調節により約5,900万立方メートルの貯留、ダムへの最大流入量時に下流へ流す水量を約4割低減した。



洪水貯留開始前の貯水池の状況  
(7月4日9時頃)

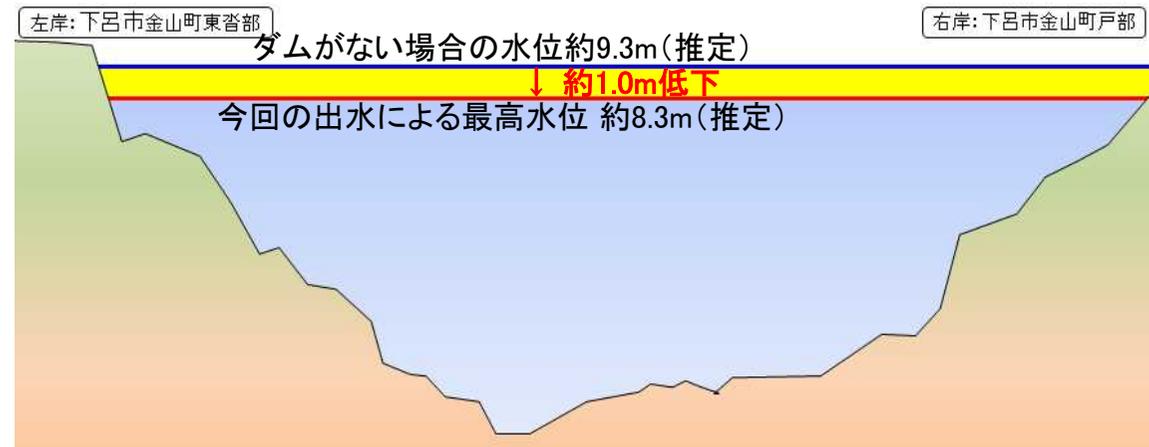


洪水時最高水位に近づく貯水池の状況  
(7月8日15時30分頃)

# 平成30年7月4日～8日の洪水調節

- 今回の防災操作では洪水ピーク付近で下流へ流す水量を約4割低減することによりダム下流9.3km地点にある基準点（東沓部）において水位を約1.0メートル低下させたと推測される。

## ■ 岩屋ダムによる馬瀬川(東沓部地点)の水位低減効果(7月8日5:10時点:推定)



(注)7月8日以降、水位データが欠測したため、ダムがある場合の流量は欠測前と同程度と仮定し、この流量にダム地点流入量が最大となった時刻の調節量を単純加算し、ダムがない場合の流量を推定。この流量から水位を算定したもので、あくまでも参考に推定した値です。